

埼玉県私立中入試概況

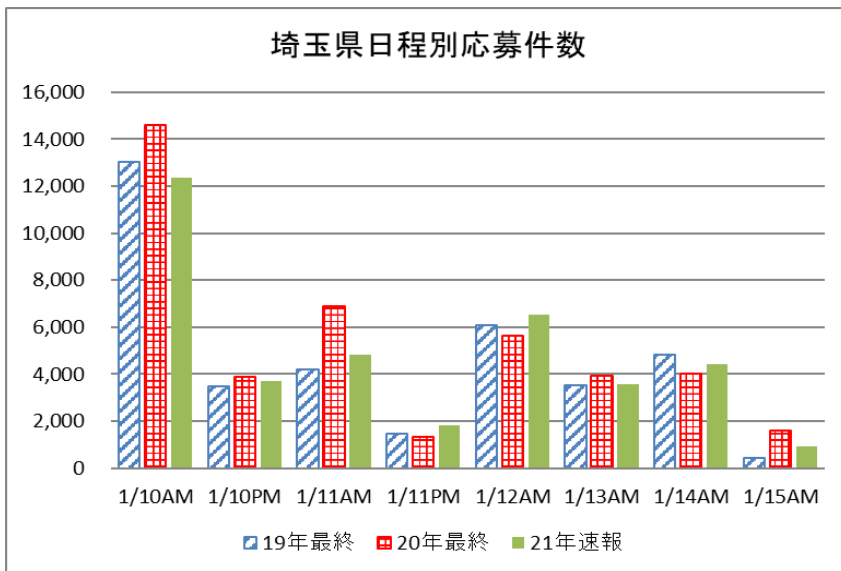
1. 概況 コロナ禍対応で応募総数は減少、安全志向が目立つ

埼玉県内の公立小6児童数は義務教育学校(2019年度から発足)を含めて約62,400名で、昨年より約600名減っています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、3月5日現在では約51,400件で、昨年の最終が約53,600件でしたから約2,200件の減少です。一昨年も昨年も大きく増えていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって、今年は減りました。入試結果未公表の学校や3月になってから入試を実施する学校などもあるため、

最終的な応募総数はもう少し増える見込みです。実際の受験者数も約41,900名で、昨年最終の約43,300名より約1,400名減っていて、合格者数は約23,300名と、昨年最終より約300名減っています。合格者数には、コース制実施校での上位コース入試で、入りやすいコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校がありますから、「入学できる」という意味の合格者数はもっと多くなりますが、平均の実質倍率はやや下がっています。

上のグラフは、県内中学入試の日程別の応募者数の合計を一昨年、昨年と比較したもので、今年は速報値です。私立・公立一貫校合計です。国立の埼玉大附属も含みたいところですが入試が2月1日でグラフには含まれていません。また、私立各校と国立の埼玉大附属は、例えば私立の一般入試は1月10日開始と、入試日程が日付でルール化されていますが、公立一貫校は曜日固定のため、年ごとに日程が動きます。そのため、同じ日付で見ると応募者数が大きく増減することがあります。

今年も応募者数では1月10日午前が12,000名を超えて最多で、全日程合計の四分の一弱を占める集中ぶりですが、昨年より大きく減りました。これは全国最



多の応募者数の栄東が、新型コロナウイルス感染防止のため、10日午前の難関大1回を分割し、10日午前と12日午前の日程選択にしたことが理由です。この影響で、昨年までは同校は東大選抜入試を2回実施していたのが1回になり、難関大入試と併せて4回挑戦できたものが、10日と12日の併願ができなくなったことで3回しか挑戦できず、それが全体の応募者数にも影響しています。もっとも、それでも今年も1万名を超える応募者がありましたから、影響を受けた他の私立中学も見られました。

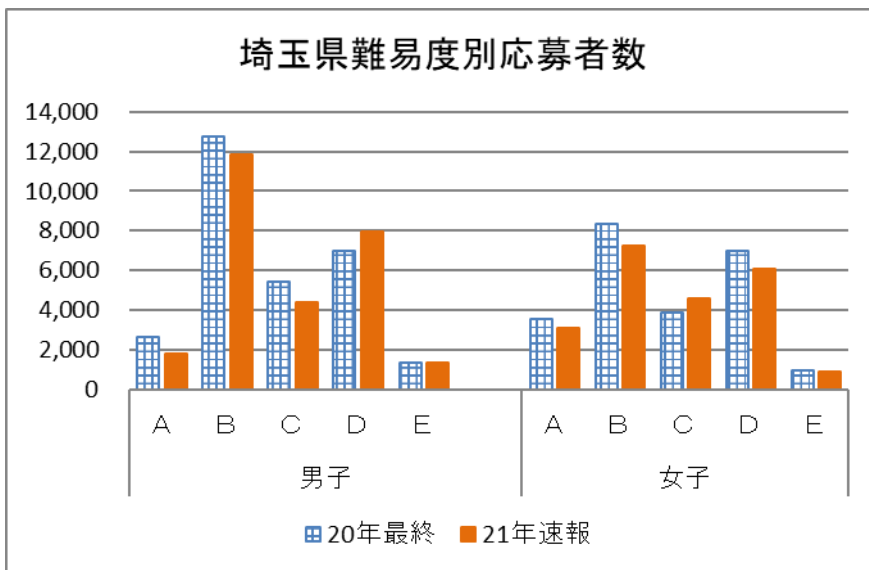
他の日程は10日午前よりも少ない応募者数ですが、11日午前の減少が大きくなっています。昨年は私立各校だけでなく、公立一貫校の伊奈学園、市立浦和、市立大宮国際も実施されましたが、今年も日程が動いたための減少です。12日午前も、今年も10日午前の次に応募者が多い日程です。昨年も12日午前には栄東が東大特待Iを実施していましたが、難関大1回の日程選択になったことで応募者が大きく増えました。昨年は市立大宮国際もこの日程で、今年も17日に移りましたが、その分を埋めてなお大きく増えたこととなります。このほか、10日午後をはじめ、他の日程で応募者が隔年的に増減しています。栄東だけでなく開智もコース

改編で入試日程ごとの応募者数が増減の理由です。

次に、難易度による志望校選択の傾向を見えます。右のグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年を受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広い外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年の用いた予想難易度、今年は今年の用いた難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

男子はBグループが最多で、今年も応募総数の4割以上を占めています。2番目はDグループで応募者は昨年より約1,000名増えました。次はCグループで約1,000名減っています。最難関校のAグループは約800名減っていて、Eグループは今年も最少でした。A～Cグループが減っていて、Dグループが増えています。埼玉県各校は東京などからのお試し受験生が多く、これがA・Bグループの減少の理由の1つで、Dグループの増加は県内の受験生の安全志向が強くなっている表れかもしれません。

女子もBグループが最多、次はD、C、Aグループの順番でEグループは最少です。AグループとBグループは減少していますが、理由は男子と同様です。Cグループは約700名増加、Dグループは約900名減っ



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で埼玉県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。なお、栄東で難易度が分けられない入試はBとしています。

- A…浦和明の星・開智(特待)・栄東(東大)
- B…大宮開成(特待)・開智(先端)・開智未来(T 未来)・栄東(難関大)
・淑徳与野・城北埼玉(特待)・立教新座
- C…青学浦和ルーテル・大妻嵐山(奨学)・大宮開成(一般)・開智未来(未来)
・埼玉栄(医学・難関大)・埼玉大附属・城西川越(特選)・昌平(T)
・西武台新座(特待)・西武文理(グローバル特選)・星野学園(理数)
・細田学園(特待)
- D…浦和実業・大妻嵐山(一般)・開智未来(開智)・春日部共栄・埼玉栄(進学)
・狭山ヶ丘高付属・城北埼玉(一般)・昌平(一般)・西武文理(グローバル)
・西武台新座(特待以外)・聖望学園(奨学)・東京農大第三・獨協埼玉
・星野学園(進学・総合)・細田学園(一般)・本庄東高附属
- E…大妻嵐山(まなび力・未来力)・国際学院・埼玉平成・自由の森・秀明
・城西川越(一貫)・聖望学園(一般)・東京成徳大深谷・武南・本庄第一

ています。増減の関係は男子とは逆ですが、地元の難関・上位校受験生の安全志向などが影響しているでしょう。以下、各校の状況を見ていきます。新設の川口市立、市立大宮国際中等、市立浦和高附属、伊奈学園は、公立一貫校の資料をご覧ください。

2. さいたま市・その周辺地域

今年も応募総数は1万件を超えて日本一の栄東から。同校は新型コロナウイルス感染拡大防止で1月10日の入試を10日と12日の日程選択とし、東大選抜を特待

として1月16日に集約するなどの変更がありました。体調不良者向けの追試を設定しましたが、受験生側からは4回の入試が実質的に3回に減って挑戦のチャンスが減ったこととなります。同校に限らず埼玉県内の学校は東京都や神奈川・千葉県の受験生にとって前哨戦の位置づけになりますが、東京都などの塾の中には感染防止のため、前哨戦の受験校数を減らす進路指導を行ったところもあって、今年も1万名を超えるかどうかが目されました。結果はやはり1万名を超えて、今年も難関・上位校受験生の前哨戦の役割を果たしています。1月10・12日の1回と16日の東大特待は合格最低点が上昇しています。コロナ禍で準備不十分の受験生を考えて出題の難度を少しセーブしたようですが、しっかり準備した受験生が多かったのでしょう。逆にケアレスミスが合否を分ける結果になっています。18日の2回はあまり変化がなく、例年並みの難度だったようです。

栄東のライバル校、開智は難度別の先端クラスと一貫クラスの2コース制でしたが、今回から先端クラスのみで統一、1月11日午後に算数1科目入試を新設するなどの変更がありました。昨年は各回次合計で5千名を超える応募者がいましたが、今年は4千名台に留まっています。入りやすいコースの募集を停止したため、昨年は一貫クラスの入試だけで全体の約半分の応募者がいましたから、先端クラスの人気は上がったこととなります。入試の設定がかなり変わっているため、単純比較はできませんが、1月11日の先端特待は昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなさそうです。他の回次は全体に合格最低点が下がっていて、先端クラスへの一本化で出題が少し難化したようです。

大宮開成は一昨年、昨年と各回次合計の応募者の増加が続いていました。特に一昨年は入りやすいコースの募集を停止、昨年は2月の最終回を廃止して入試の回数を減らしています。どちらも受験生に敬遠傾向が生まれる施策ですが、それでも増加が続いたわけです。しかし今年は減少しました。ただ、減少幅が大きいのは1月12日の特待選抜と14日の2回で、10日の1回は昨年並みです。栄東の日程変更など、他校の影響が強いようです。特待選抜は昨年並みの合格最低点ですが、1・2回は合格最低点が少し下がっていて、人気を背景に、出題難度が少し上がったようです。

青学浦和ルーテルは2019年に青山学院大学の系属

校になって校名を変更した学校です。基本的に小中高一貫校のため、入試も小規模でしたが、2019年には応募者が大幅に増加、小規模を脱しました。受験生の期待はもちろん青山学院大学内部進学です。昨年は応募者が倍増、今年は2教科受験を取りやめるなど、受験のハードルを高くしましたが、応募者の増加は続いています。合格最低点は未公表ですが、昨年上がった難度が今年もさらに上がったようです。

栄東の系列校、埼玉栄は1月14日午前入試を12日午後に移しました。全体に遅い日程まで挑戦を続ける受験生が減るだろう、ならば早期に、という判断でしょう。昨年は、各回次合計の応募者数が大きく増えましたが、今年は少し減っています。1月10日午前・午後は11日以降で減っていますから、遅い日程まで挑戦を続ける受験生が少し減った影響でしょう。医学・難関大・進学の3コースで、特に上位コースの医学・難関大は合格最低点が全体に上昇しています。栄東と同様、出題の難度がセーブされたのかもしれませんが。進学コースは昨年並みの難度だったようです。

浦和実業は1月10日の適性検査型1回を11日に変更しました。昨年は2月の入試を廃止して入試回数を減らしたのに各回次合計の応募者数は増えていましたが、今年は昨年並みでした。回次ごとでは多少の増減が見られます。合格最低点は19日の適性検査型2回が上昇していますが、出題難度の関係でしょう。他の回次はいずれもほぼ昨年並みで、難度に変化は見られません。武南は1月11日午前と24日午前に入試を増設、2月の入試を1科目選択とするなどの変更があります。同校は京浜東北線沿線では一番都内に近い立地ですが、都内の受験生の「お試し受験」が少なく、各回次合計の応募者数は小規模でした。しかし一昨年からは積極策に出て応募者は増加、昨年も増加が続き、今年は入試増設で倍増です。合格最低点は未公表ですが不合格者が少なく、難度は昨年と変わっていないようです。

国際学院は入試日程ごとの入試科目を一部変更しています。小規模な入試の学校ですが、各回次合計の応募者数は増えていきます。難度は昨年とあまり変わっていないようです。国立の埼玉大附属は帰国生入試が3月で本稿では掲載できません。一般入試の応募者数は一昨年が増加、昨年が一昨年並みで、今年は減っています。少し入りやすくなったかもしれません。

女子校では、浦和明の星は、1月14日の1回、2月

4日の2回とも応募者が少し減っています。昨年の1回は増えていましたが、2回は一昨年、昨年も減っていました。2月の入試は都内校を選ぶ受験生が増えているのでしょうか。今年の本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですが、やや入りやすくなっているのかもしれませんが。淑徳与野は、2018年は1月13日の1回の応募者数が前年並み、2月4日の2回は大きく減りましたが、一昨年は1月13日の1回、2月4日の2回とも大きく増加、昨年は1回が増加、2回は一昨年並み、今年は1回が少し減って2回はやや増えました。実際の受験者数、合格者数も同じ傾向です。1回は合格最低点が上昇していて、少し難化したかもしれません。2回は昨年並みで難度に変化は見られません。

3. 東武東上線南部・西武線方面

男子校から見ていきます。城西川越は特選と総合一貫の2コース制です。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。増加が目立つのは1月10日午前の総合一貫1回と16日午前の同2回で、同校を第一志望で考える挑戦受験生が増えているのでしょうか。合格最低点は回次によって少し上下が見られますが、特選は少し上がっています。出題との関係でしょう。特選、総合一貫とも概ね難度は昨年並みだと思われます。城北埼玉は、昨年は各回次合計の応募者数が一昨年並みでしたが、今年は各回次とも増加して人気が上がっています。1月12日午前の合格最低点は昨年並みですが、他の回次は少し下がっています。出題がやや難しかったのかもしれませんが。難度面はあまり変わっていないようです。

立教新座は、一昨年は1月25日の1回と帰国、2月3日の2回とも応募者が増加、昨年は1回が増加、帰国と2回が少し減って、今年は1回と帰国が減って2回が増えています。例年通り補欠が出ていますが、合格最低点は1回が昨年並みで難度はあまり変わらなかったものの、2回は少し難化しているかもしれません。

男女校では、西武文理は昨年まで特選と一貫の2コース制でしたが、これをグローバルコースとして一本化し、合格発表の際に選抜クラス合格を発表するように変更しました。また1月12日午後の英語・算数1科目入試を取りやめ、英語は24日午前に英語4技能入試を新設しています。各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続いていましたが、今年は大きく減少しまし

た。コース一本化の影響です。難度面では各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。星野学園は1月14日午前の総合選抜入試で英語選択を追加しました。理数選抜と進学の2コース制で、各回次合計の応募者数は一昨年まで増加、昨年は一昨年並みでしたが今年には大幅に増加して、他校からの受験生の流れも見られました。もともと男子よりも女子の応募者が多い学校ですが、この点は変化がありません。合格最低点は1月10日午後の理数選抜1回が少し上がり、11日午後の進学2回がやや下がっていますが、出題の関係でしょう。各回次とも難度は変わっていないようです。

狭山ヶ丘高付属は一昨年まで連続して各回次合計の応募者が少しずつ減っていましたが、昨年は一昨年並み、今年は増加して人気が回復してきました。合格最低点は未公表ですが、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。西武台新座は特選・特進の2コース制です。各回次合計の応募者数は、一昨年は減りましたが、昨年、今年と増えています。回次ごとでは1月10日午前・午後、11日午前・午後が増加の中心で、遅い日程まで挑戦を続けようとする受験生は増えていません。合格最低点は一部昨年より少し上がっている回次も見られますが、やや下がっている回次も多く、出題との関係はありますが、やや入りやすくなっているのかもしれませんが。

聖望学園は1月11日を適性検査型の実施とし、12日午後の入試を午前に移動、18日はプレゼン入試のみから教科型とするなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と減っていますが、今年は増加しています。一番増加が多いのは1月10日ですから、志望順位が高い受験生が増えたのでしょうか。合格最低点は一部未公表もありますが総じて昨年より上がっています。出題内容の影響もありますが、少し難化したのかもしれませんが。一昨年新設開校した細田学園は、今年は1月18日の適性検査型入試の選択バリエーションを増やしました。今年も各回次合計の応募者が昨年よりも増加し、学校の認知度が上がりつつあります。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

全寮制の秀明は、入試日程などに一部変更がありました。今年は昨年並みの応募者数です。全寮制という性格上、今年も小規模な入試で難度も変わっていないようです。自由の森学園は入試日程などに一部変更が

ありました。本稿執筆時点でまだ終わっていない入試がありますが、各回次合計の応募者数は少し増えています。今年も小規模を脱していませんが、独特な教育方針への支持でしょう。難度にも変化は見られませんでした。

4. 東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面

獨協埼玉は帰国生入試を1月17日の3回にも追加しました。各回次合計の応募者数は一昨年、それまでの傾向が反転して増加、昨年、今年とほぼ同じ水準が続いて安定した人気です。合格最低点は3回の女子の上昇が目立ちますが、得点分布の関係でしょう。それ以外は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。春日部共栄は、1月10日午後を4科のみから2科4科選択に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は少し減少し、今年は減少が続きました。回次ごとでは1月10日午前が昨年並み、午後は2教科受験が可能になって応募者は増えましたが、それ以後が減少していて、併願受験生が減ったようです。合格最低点はやや上下がありますが概ね昨年並みで、難度はあまり変わっていないでしょう。

昌平は国際バカロレアの認定校で、教育プログラムに期待する受験生も見られます。今年は適性検査型入試を算数1教科入試に変更しました。各回次合計の応募者数は増加が続いていて、今年も増えています。今年に入試の早期終了傾向がありますから1月12日までの早い日程が増加しています。Tクラスと一般の2コース制で、Tクラス入試は満点を変更していますが、得点率は昨年並みです。一般の入試もあまり動いていませんから、難度は昨年並みでしょう。

開智未来は1月10日午前に、系列校の開智の受験生が希望すれば開智未来の合格判定も行う入試を実施し、それに伴って他の入試の日程を変更しています。また、12日午後に算数1科目入試も新設しました。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は少し減少していましたが、今年は特に新設した開智併願入試の応募者が多く、合計では大きく増えました。ただ、他校にも見られることですが、遅い日程の応募者は減っています。日程等が変更になった入試が多く、合格最低点の単純比較はできませんが、独特の探究型入試は

合格最低点がやや下がっています。その性格上、出題が少し得点しにくいものだったのかもしれませんが。教科型の入試は昨年とあまり変化が見られず、難度は変わっていないようです。

5. 東上線北部・高崎線方面

大妻嵐山はストーリーテリングや算数1教科入試を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は今年も増加が続いています。遅い日程でも応募者が増えていますから人気が上がりました。合格最低点は1月11日午前の奨学生入試と23日午前の3回がやや下がっていて、少し入りやすくなったかもしれません。他の回次は昨年並みの難度でしょう。

男女校では東京農大第三が4回の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加していて、今年も少し増えています。今年も昨年並みと言ってよいでしょう。1月11日午前の3回の応募者が増えている、併願受験生が増加の中心です。合格最低点は未公表ですが、実際の受験者数、合格者数は昨年とほとんど同じで、難度面ではあまり変わっていないようです。埼玉平成は1月10日午後の入試を11日午前に移し、12日と19日の入試を統合して16日とするなどの変更がありました。通常の教科の入試だけでなく、実技型の英語や科学の入試も行っている学校ですが、入試の統合もあり、各回次合計では応募者数が減って小規模な入試になっています。合格最低点もあまり変わっていません。

高崎線方面では、本庄東高附属が曜日の関係で今年も3回の入試日程を変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年在やや減少、昨年は少し増えていましたが、中学受験があまり広がっていない地域事情や少子化もあって今年は減っています。合格最低点は回次や科目、男女によって上下しているものがありますが、得点分布の関係でしょう。難度そのものはあまり変わっていないようです。本庄第一も曜日の関係で一部の入試日程を変更しました。まだ中高一貫生が高校を卒業していないことから、今年も小規模な入試でした。東京成徳大深谷も、最終回の日程・科目変更がありました。やはり中学受験がまだまだ広がっていない地域事情もあって、今年も小規模な入試でした。